

シンポジウム I 地域医療の共創

10月23日(月) 9:00～11:00 第1会場(仙台国際センター 会議棟 2階 大ホール)

座長：金田 巖(石巻赤十字病院 院長)

石橋 悟(石巻赤十字病院 副院長)

S1-01 住民とともに学ぶ地域医療

魚沼市立小出病院長・地域医療魚沼学校長

ふせ かつや
布施 克也

【魚沼二次医療圏医療再編成事業としての地域医療魚沼学校】

新潟県魚沼二次医療圏では、将来の地域医療完結性の向上と継続性を担保するために、「病院完結型医療から地域完結型医療へ」を合言葉に大規模な医療再編成が進行中である。市民にとっては「医療福祉機関の連携により、地域全体がICUから在宅ベッドまでを有する大きな病院になる」ことが目標である。再編成により新設された「魚沼基幹病院」に高度・専門医療を集約することによって、周辺病院はその中心機能を総合診療による地域包括ケアの実現に向けて行うことができるようになった。時代の要請は「CureからCareへ」であり、超高齢化社会においては病院中心の治療医学から包括的なケア提供体制へシフトすることは必然であるが、そのためには地域内多職種の有機的連携と、ケアの対象である高齢者自身の社会参加や地域力(ソーシャルキャピタル)の向上が必要である。地域包括ケア実現のために、地域住民の啓発と地域医療を担う専門職間の連携強化のためのソフト事業として2011年4月に「地域医療魚沼学校」は開校した。

【学校カリキュラムとその成果】

学校カリキュラムとして、①「学生・研修生が学ぶ」②「住民が学ぶ」③「専門多職種が学ぶ」の三本柱を策定した。①は次世代の医療人としての研修医・医学生等が、病院だけでなく地域内の現場で多職種協働作業を学ぶプログラムである。②は、住民自らが人材であるという再発見コンセプト「住民こそ医療資源である」を合言葉に、学校教育現場・地域集会などでのヘルスプロモーション活動で、学生・研修生・専門多職種が講師となり、住民とともに学ぶ取り組みである。③は既存人材のネットワーク強化により地域包括ケア実現の基盤づくりを目指したIPE & Wプログラムである。このようなカリキュラムに2016年までの6年間で約22120人が参加した。

地域医療学校活動の成果として以下の五点を挙げたいと思う。

- ①救急車の適正使用の推進
- ②患者参加の疾病管理
- ③禁煙授業による防煙効果
- ④指導者の育成
- ⑤街づくり活動との協働

「地域完結型医療」と「地域包括ケア」を将来にわたり維持発展させるために、地域ケアに携わる人たちが、住民も含め、将来にわたり、当事者として、地域医療を「学び続ける」ことが地域医療魚沼学校の目標である。